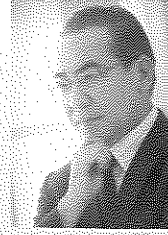


～ 昨日の風 明日の風 ～  
**経営コンサルタント  
 独白録**

【第127回】 個性の正体と生き方



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、経営改善支援センター（福岡市、URL: <https://sien.co.jp/>）代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

世代に関わらず「個性の時代」と言われます。個性とはある個人や個体が持っている特有の性質のことで、英語ではindividualityと言います。オリジナリティ（originality）は独創性のことから少し意味が違います。しかしふたつとも表面的なところのものではなく、ある意味深い部分から滲み出てくるものです。

### 個性の勘違い

一般的に、人と違ったファッションをしたり発言をする人たちを簡単に個性的と呼んでしまうことがあります。組織の中では、定められた制服を着用しない、髪を金髪に染める。大きな声で発言をする、人の意見を茶化す、遮る。統制の取れた行動から外れ気ままに振る舞う…。こういうものは、個性でも独創でもなく単なる人目を引こうとするパフォーマンス（performance）に過ぎません。個性と独創と目立ちたがりとは峻別しなければなりません。

### 芸事の育成

芸事（芸術）の世界では、独創性や目立つことは大切な要素です。ではその世界では個性をどのように育てているのでしょうか。

「まず師匠（尊敬する人物）のすべてを真似ること。実際の技術だけではなく、師匠の歩き方、喋り方、酒の飲み方、何気ない仕草から箸の上げ下ろしまで、すべてを真似ることから始める。何年も何年も真似をし続け、そして真似出来なかったことが師匠の個性であり、真似ができないそこに本人の個性が潜んでいる」

昔、落語や囲碁・将棋の世界で若者を師匠の家に住み込ませた理由はそこにありました。最初から技術を教え込むと小さな人間しか育たないと言います。

### 「守破離」の思想

茶道や武道の世界でも同じような考え方が存在します。千利休の「規矩作法 守り尽くして破るとも離るとても本を忘るな」（利休道歌より）

この考え方をまとめて【守破離】と呼びます。先人たちが作り上げ積み重ねたものを守り型を身に付ける。そこから新しいものを模索してその型を破り、独自のものを打ち立てる。しかしその時も本質を忘れるな、という意味です。「型破り」とはまず型を整えた者が初めて行えることです。そしてその型を身に付けるためにはある程度の時間がかかりますがそこをショートカットしては正しい個性を得ることは出来ません。

### ブラックボックス時代

21世紀に入り科学技術が飛躍的に発展しました。様々な分野において20世紀の基礎的な研究が融合して一気に社会を変えてしまいました。コンピュータの出現が計算速度を上げ、観測技術を向上させ新しい分野を切り開きました。遺伝子学・電子物理学・量子力学・脳科学・天文学などかつてのSF小説の世界が目の前で繰り広げられています。意外と知られていませんが現在地球の周りを飛ぶ人工衛星は1万2千基を超え、毎年千基ずつ増えています。そして我々はAI（人工知能）時代の入口に立っています。そして「原理や仕組みを知らなくても結果が手に入る」という人類史上稀にみる幸運かつ不幸な時代に遭遇してしまいました。指先を動かすだけで、機械に声を掛けるだけで結果やサービスを受けることができます。不思議なブラックボックスの中に生きています。そうした時代にどのように次の世代を育成するかは企業にとって避けられない喫緊の課題でもあります。

### 自分自身との対話から

恵まれた現代社会で真の個性を育むことは難しくなりました。手取り早く結果を求めると単なるパフォーマンス（目立ちたがり）で終わってしまいます。特に若い世代の方々は、改めて自分自身と深く対話をして【守破離】の意味を考えてみてください。実在するか、しないかは別にして【自分にとっての師匠】は誰ですか？自分はどのような人生を送りたいと思っていますか？